第二次経営戦略改定ポイント

第1編 総則の改定ポイント

1. 計画期間を延伸　R9～R19（11 年間）※上位計画である深谷市総合計画の計画期間に合わせたため

2. 事後検証に関する事項を追加　経営目標に対する結果・検証・評価を記述し、PDCA サイクルを確立

3. 経営目標を1つ追加　投資の評価指標となる「有形固定資産減価償却率の抑制」を新規に追加
→当指標の上昇率を類似団体よりも抑制することを目標とする

※有形固定資産減価償却率とは、保有する資産の老朽化の進捗度合いを測る指標であり、数値が高いほど老朽化が進んでいることになる。
本市のR6 数値は45. 6%であり、全国平均の 52.4%や類似団体の 52.6%に比べると低水準であり、老朽化度合いは低いと言える。

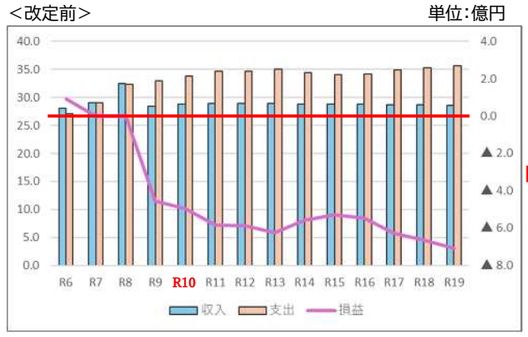


第2編 水道事業経営戦略の改定ポイント

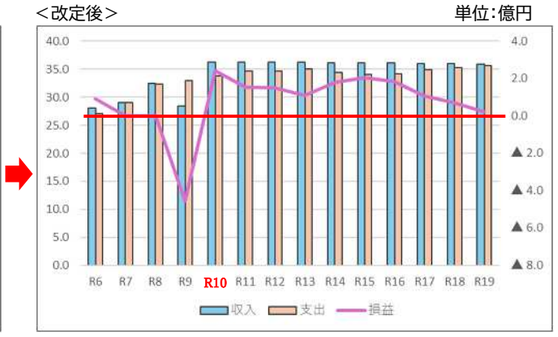
1. 収支計画の更新

・最新情報（R7 決算まで）を反映するとともに、物価上昇を加味して更新した
・令和 10 年度に料金改定（改定率30%）を実施するものとした

＜改定前＞　単位：億円



＜改定後＞　単位：億円



2. 料金改定について

・料金改定を実施しない場合、今後4～7億円程度の赤字が発生する
・事業資金が枯渇し、事業運営の持続が困難になることから改定の実施が必要

3. 今後の事業取組

・老朽管更新事業…重要給水施設への配水管の耐震化工事（R12 まで）
・前小屋浄水場統廃合事業…皿沼浄水場へ統廃合を図り、維持管理費の縮減に努める
・前川原浄水場統廃合事業…皿沼浄水場へ統廃合を図り、維持管理費の縮減に努める
・本田配水場拡張事業…本田配水場区域での水需要の増加が見込まれるため整備を実施
・遠方監視装置更新…アナログ通信の廃止に伴い、テレメータ施設の改修や更新を実施
・設備改良…新基本計画に基づき設備更新を実施し、R16 以降は岡部浄水場の供用開始から 20 年を経過し、設備改良費の増加が見込まれる

【検証】改定率 25%と 30%を比較

▽改定率 25%の場合の収支見通し　単位：億円

	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
収入	35.0	35.0	35.0	35.0	34.9	34.9	34.9	34.8	34.8	34.7
支出	33.8	34.7	34.7	35.1	34.4	34.1	34.2	35.0	35.3	35.7
損益	1.2	0.3	0.3	▲ 0.1	0.6	0.8	0.6	▲ 0.2	▲ 0.5	▲ 1.0

十分な利益が確保できずに、すぐに再度の料金改定の必要が生じてしまう

▽改定率 30%の場合の収支見通し　単位：億円

	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
収入	36.2	36.2	36.2	36.2	36.2	36.1	36.1	36.0	36.0	35.9
支出	33.8	34.7	34.7	35.1	34.4	34.1	34.2	35.0	35.3	35.7
損益	2.4	1.5	1.5	1.1	1.8	2.0	1.8	1.1	0.7	0.2

第3編 下水道事業経営戦略の改定ポイント

1. 収支計画の更新

・水道事業と同様に最新情報（R7 決算まで）を反映するとともに、物価上昇を加味して更新した
・堅調な使用料収入により、安定した事業運営が継続するため使用料改定を行う予定はないが、事業の進捗状況や経営状況を注視し、機会をとらえて使用料水準を検証する。

2. 今後の事業取組

・公共下水道の未普及地域の解消…現事業計画に基づく整備が R10 までに完了予定
・地震対策事業…深谷市浄化センターや管渠、マンホールなどを耐震補強
（耐震化と合わせて、耐水化も推進する）
・農業集落排水施設の公共下水道への接続を実施
…27地区のうち19施設を公共下水道へ接続予定（R18 まで）
・下水道管路施設の点検…継続的に点検・調査を実施